

事務事業名		読書推進事業			☒ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	0:6:豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	2:5:生涯学習の推進					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	0:2:市民の学習活動への支援			☐ 単年度のみ		01	10	05	04	21
所 属	根拠法令				☒ 単年度繰返 (開始 - 年度 ~)						
	部課名	教育委員会事務局生涯学習課			☐ 期間限定複数年度 【計画期間】						
	係 名	三陸公民館	電話 内線	27-3111 7181	年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 各種事業、図書展示等を実施するなど、図書に親しむ機会を提供し、読書推進を図る。 主な事業は次のとおり、手づくり絵本教室(三陸地区3地区各5回 作品展の開催)、さんりくおはなし大賞(小学生から一般まで対象に募集、受付、審査、表彰作品集の発行等を行う)、おすすめ本コンテスト(小学生から一般まで対象に募集、受付、審査、表彰、事業のデータを基にした新聞の発行等を行う)、おはなし会(子ども達を対象に読み聞かせ等を行う。)											
主な業務は、募集チラシ作成・配布、参加者及び作品募集、事業実施または審査、表彰式											
主な事業費は、報償費(審査委員、入賞賞品、講師等)となっている。											
全体計画(期間限定複数年度のみ)											
総 投 入 量 (千円)	事業費 内 訳	財源	国庫支出金								
		都道府県支出金									
		地方債									
		その他									
		一般財源									
		事業費計(A)	0								
人 件 費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計(B)	0									
トータルコスト(A)+(B)		0									

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 開催回数 (手づくり絵本教室+おはなし会)	回
手づくり絵本、さんりくおはなし大賞、おすすめ本コンテスト、おはなし会の実施		イ 参加者 (手づくり絵本教室+おはなし会)	人
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ 応募件数 (おはなし大賞+おすすめ本)	件
前年度同様		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		名称	単位
一般市民		カ 市内人口	人
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		キ	
本に関心を持ち、図書室を利用してもらう。		ク	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
・学習意欲の啓発・向上がなされている。 ・主体的な学習活動が行われている。 ・学習成果が発揮されている。		名称	単位
		サ 参加率(イ+ウ/市民)	%
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(目標)	22年度(目標)
投入 量	事業費	単位						
	財源内訳	千円						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	329	188	170	130	165	165
	事業費計(A)	千円	329	188	170	130	165	165
	人件費	人	2	2	2	2	2	2
	延べ業務時間	時間	200	200	200	200	200	200
活動 指標	人件費計(B)	千円	800	800	800	800	800	800
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,129	988	970	930	965	965
	ア	回	15	47	42	27	50	50
	イ	人	144	530	334	312	350	350
	ウ	件	801	702	988	732	800	800
	カ	人	43567	42575	42158	41684	-	42000
	キ							
	ク							
	サ	%	2	2	3	2	3	3
	シ							
対象 指標	ス							
成果 指標								

事務事業ID	1068	事務事業名	読書推進事業
--------	------	-------	--------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

三陸町内の読書推進事業の一環として「手づくり絵本教室」は昭和60年、「さんりくおはなし大賞」は平成2年、「おすすめ本コンテスト」は平成11年から開始。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

三陸町内の読書推進事業として各事業が行われてきたが、大船渡市との合併で市立図書館にも類似事業ある。
(市立図書館事業 手づくり絵本教室、読書感想文コンクール、おはなしパレード等)

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

学校関係者や審査員等から「本を読んだ成果等を文章にまとめることは大切なことなので継続してほしい」という要望がある。
しかし、学校側にとっては、コンテスト関係が市立図書館と三陸公民館からの2箇所から募集がかかることになり、取り組みが大変であるという声も聞かれる。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 読書推進事業を市で行うことにより、読書活動と図書室利用が広く市民に普及し、豊かな心を育むことができる。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 市民の心を育む読書推進事業は、極めて公共性が高いため妥当である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 広く市民を対象として豊かな心を育むことをねらいとするため適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] コンテスト関係の応募者は、市民のごく一部であり、市民への周知等により向上の余地がある。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 市内、特に三陸地区内の読書推進が進展しないため影響がある。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 市立図書館主催の読書推進事業 ☒ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 市立図書館との類似事業は、協議が必要であるが統廃合ができるものがある。しかし、さんりくおはなし大賞やおすすめ本コンテストは、類似事業がないため統廃合は不可能である。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 事業費は報償費がほとんどである。消耗品費としては、作品集をつくる最低限の費用となるため削減の余地がない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 事業への対応時間は、必要最低限であるため削減の余地がない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 受益者負担は最低限で、講座等の材料費がそれにあたる。

事務事業ID	1068	事務事業名	読書推進事業
--------	------	-------	--------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 当公民館主催のコンテスト関係事業は、年々応募件数が低下している。コンテスト自体の質を高めるためにも、市内全域・関係機関への周知を図らなければならない。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 事業の精選に関しては、市立図書館との協議が必要である。 市内に広く募集することももちろんだが、収集したデータを提供(活用)することも必要である。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 市立図書館との連携をより一層図る。																							

	(職 名)	原則として施策の主管課長	(氏 名)
4 事務事業の2次評価結果	2次評価者	生涯学習課長	

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由 事業の周知方法を工夫する余地がある。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 継続して事務事業を実施する。事業PRを充実させる。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項